スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

埼玉県 伊奈町

自 治 体 名 ： 埼玉県伊奈町
担 当 課 名 ： 生涯学習課
電 話 番 号 ： ０４８-７２１-２１１１

1.自治体の基本情報

スポーツ庁

基本情報

面積	14.79 ㎢
人口	45,009 人 （令和７年２月１日現在）
公立中学校数	３校
公立中学校生徒数	1,326 人 （令和６年５月１日現在）
部活動数	41 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	ガイドラインは策定済み

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

現在当町の運動部活動は29部活あるが、令和５年度からサッカー部が合同部活動として活動するなど、少子化のため、チームが編成できない状況になっている。今後も生徒数は減少していくことが想定されているため、部活動を維持していくことは難しいと考えている。

令和５年度に「伊奈町立中学校の部活動地域連携・地域移行検討委員会」を設立し、実証事業の実施についても検討を行った。

伊奈町で行う地域スポーツクラブ活動に、どのような要素が必要となるかを明らかにし、地域スポーツクラブ活動への移行の形を作るために令和６年度に実証事業を実施した。３中学校から生徒を募集して１ヵ所に集まって練習を行う形としたが、問題なく活動できたことは一つの好事例となった。

町の面積が広くないことから、今後も町内中学生を１ヵ所に集めて活動を行うという形で実施していきたい。

町立中学校生徒数見込み（令和 6～10年度）

生徒数		R５	R６見込	R７見込	R８見込	R９見込	R10見込
伊奈中		通常	通常	通常	通常	通常	通常
	合計	318	295	282	273	272	270
生徒数		R５	R６見込	R７見込	R８見込	R９見込	R10見込
小針中		通常	通常	通常	通常	通常	通常
	合計	842	856	786	757	710	677
生徒数		R５	R６見込	R７見込	R８見込	R９見込	R10見込
南中		通常	通常	通常	通常	通常	通常
	合計	251	254	252	271	283	264

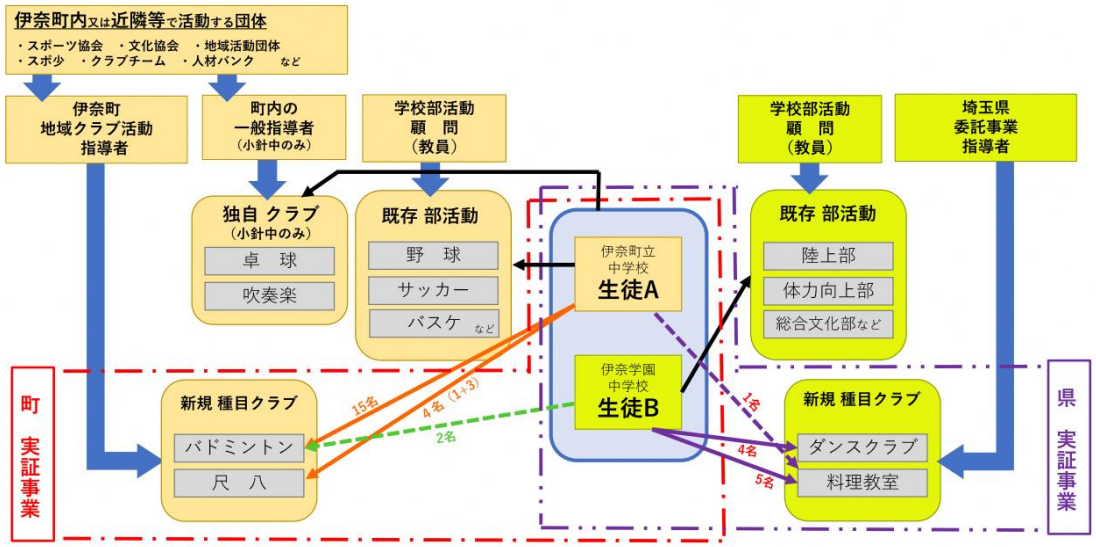
2.実証内容と成果

スポーツ庁

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）

R6　伊奈町地域クラブ活動　実施体系図



●行政組織内での役割分担

◉教育委員会
・生涯学習課…中学生の地域クラブ活動の環境整備
・学校教育課…部活動改革の主幹、学校との調整・連携、学校に関する事項について

年間の事業スケジュール

令和６年５月	校長会にて実証事業説明
令和６年６月	第１回検討委員会開催
令和６年７月	実証事業募集開始 実証事業説明会開催
令和６年８月	町教委職員全体研修会にて、 情報提供
令和６年９月	第２回検討委員会開催
令和６年１０月	実証事業開始
令和６年１２月	第３回検討委員会（視察） 開催
令和７年１月	実証事業終了
令和７年２月	第４回検討委員会開催

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	3 校	実施した地域クラブ総数	2 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		0 クラブ（0 部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		2 クラブ
全体の指導者数	5 人	全体の運営スタッフ数	6 人（生涯学習課４人、学校教育課２人、全員他業務と兼務）

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者（学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数（他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
バドミントンクラブ	教育委員会直営	バドミントン（新）	週１回	12:45～15:30	１年生５人 ２年生９人 ３年生３人	令和6年10月から令和7年1月	伊奈町立南中学校体育館	4 人	６人（内、兼務６人）	月会費1,000円	不参加
尺八クラブ	教育委員会直営	尺八（新）	月２回	14:00～16:00	２年生３人 ３年生１人	令和6年10月から令和7年1月	伊奈町立伊奈中学校体育館	1 人	６人（内、兼務６人）	なし	不参加

2.実証内容と成果

取組内容

●取組項目名　ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保　/　ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項（ア）

・教育委員会主体となり、３中学校の生徒を対象として、バドミントンに参加したい生徒を募集し、一つの中学校を中心に実施した。
・参加者管理、参加者・指導者への連絡にICTを活用した。

取組の成果（ア）

・町立３中学校に加え、町内所在の県立中学校からも参加者あり、町内学校を会場として活動を行うことができた。参加した中学生17人を対象としたアンケート（回答者８人）の結果、回答者の87.5%が問題ないと回答した（未回答が１人）したことから、移動等による問題はないと言える。

今後の課題と対応方針（ア）

・既存部活動にはない種目での実証事業であったが、生徒の選択肢を増やす上で有効である。
・今後も３中学校の生徒が１ヵ所で練習を行っていきたい。

取組事項（イ、ウ）

・町内に所在するバドミントンのクラブチームの指導者に担っていただいた。
・資格有無については求めなかった。

取組の成果（イ、ウ）

・日頃から指導していることから、指導者が体系的な練習メニューを考えていただけたことで、生徒の技術が上達していることが見て取れた。
・参加した生徒も同じクラブチームに所属していることから、指導者との意思疎通も取れていた。
・指導者による出欠や練習内容の記録についてもアプリを使用して行えるようになっていった。
・指導者の確保において、団体の代表者に依頼することでうまくできた。
・集金についても団体のやり方を実証事業にも応用して行っていただけた。

今後の課題と対応方針（イ、ウ）

・指導者を確保するために町にある既存団体との協力が不可欠であるので、町内及び近隣の団体への周知及び話し合いの機会を持って行く必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　エ：面的・広域的な取組　/　オ：内容の充実　/　カ：参加費用負担の支援等　/　キ：学校施設の活用等

取組事項（エ）

・町内全３校に事前の周知、参加者応募を行う。

取組の成果（エ）

・一つの学校に集まって活動を行うにあたり、参加者本人による自転車やバスでの移動や保護者の送迎等があったが、問題はなかった。
・事前の周知や応募時の説明が不足してしまったためか、参加生徒を多く集めることができなかった。

今後の課題と対応方針（エ）

・引き続き町内1ヵ所での活動としていく。
・チラシの配布だけではなく、生徒の前でPRできるようにしていく。

取組事項（オ）

・現在、町内において学校部活動として実施していないバドミントンを実証事業として実施した。

取組の成果（オ）

・バドミントンをやりたい生徒が応募してくれた。生徒のニーズに応えることができた。
・クラブチームで活動している生徒と初心者が参加したが、指導者が練習メニューを考え、指導ができていた。

今後の課題と対応方針（オ）

・生徒のニーズがある種目を把握する必要がある。

取組事項（カ）

・受益者負担として、月額1,000円の参加費を負担していただいた。
・地域クラブに係る経費を町単費で賄うことは難しく、新たな施設整備もできないため既存施設利用。
・参加費用だけでは収支バランスが取れないので、他の歳入を考える必要がある。

取組の成果（カ）

・月額1,000円の参加費については、負担と感じた家庭はわずかであった。

今後の課題と対応方針（カ）

・持続的な運営に必要な受益者負担額については引き続き試算していく必要があるが、参加費は集めていく予定である。
・適正な金額や生活困窮家庭への支援などについて検討していく。

取組事項（キ）

・中学校体育館で実施した。

取組の成果（キ）

・施設や備品の利用については問題はなかった。
・体育館を使う学校部活動からは使用時間について不満が挙がったようであった。

今後の課題と対応方針（キ）

・学校とよく調整を行った上で、今後も学校体育館を使用していきたい。
・他の町有施設や、民間施設を使うことも検討が必要となる。

2.実証内容と成果①

スポーツ庁

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

・町立３中学校に加え、町内所在の県立中学校からも参加者あり、町内学校を会場として活動を行うことができた。移動等による問題はなかった

・教育委員会が事務局となり、参加生徒の募集から行ったが、指導者や参加者、会場となった学校との連絡を密にできなかった。また、周知が足りなかったせいか、参加者数も想定よりも少なくなってしまった。

・指導者が体系的な練習メニューを考えていただけたことで、生徒の技術が上達していることが見て取れた。

●成果の評価

・既存部活動にはない種目での実証事業であったが、生徒の選択肢を増やす上で有効である。

・参加した中学生及び保護者からは「他校との関わりを増やせたり、自分の技術を上げられてよかった」、「専門の指導者に教えてもらえるのは、とても有意義」という声があった。

●今後に向けて

・今後も３中学校の生徒が1ヵ所で練習を行っていきたい。

・学校への周知方法として、部活動オリエンテーションでのPR等、わかりやすい形で見せていきたい。

・指導者を確保するために町にある既存団体との協力が不可欠であるので、町内及び近隣の団体への周知及び話し合いの機会を持って行く必要がある。

2.実証内容と成果③

スポーツ庁

アンケート結果・広報資料



【生徒への参加啓発チラシ】

出典:伊奈町教育委員会

2.実証内容と成果④

スポーツ庁

参考資料（活動写真）



【バドミントン　ウォーミングアップの様子】



【バドミントン　指導者からの指導を聞く様子】



【バドミントン　練習の様子①】



【バドミントン　練習の様子②】

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和４年

教育委員会内での検討開始

▶

令和５年

協議会設置、実施種目決定、指導者の選定

▶

学校現場との情報交換、調整

▶

令和６年

生徒、保護者への説明会の実施、実証事業募集

▶

実証事業実施

令和４年度

●経過

教育委員会内で協議し、伊奈町において部活動地域移行を開始すると決めた

●実施にあたって生じた課題

将来的に生涯学習分野になることから生涯学習課が主担当として進めることになったが、学校現場のことについて不明なことが多いことから、学校教育課と協力して事業を進めることになった

●実施内容、工夫した点 等

両課の担当者が良く話合いを行い、情報収集、情報交換等を行った。学校関係については学校教育課が連絡調整を進めた

令和５年度

●経過

町広報紙を使っての周知を図るとともに、先進地視察等の情報収集、学校現場の様子を聞くために検討委員会準備会として中学校校長と情報交換を行なった上で、検討委員会を実施した

●実施にあたって生じた課題

部活動地域移行をどのようにすればわからない状態でのスタートであり、情報が圧倒的に少なかった

●実施内容、工夫した点 等

伊奈町としてどのような形で行えば良いかを考えたが、実証事業を通して良い形を模索することとなった

令和６年度

●経過

実証事業を行うにあたり、指導者や会場と学校と話し合いを行った上で、校長会での説明や教職員全体研修会での情報提供、生徒・保護者向け実証事業説明会を開催して実証事業を実施した

●実施にあたって生じた課題

地域移行についての周知が足りていないことから、参加者が少なかった

指導者や会場校との連絡が足りなかく、きめ細やかなフォローができなかった

●実施内容、工夫した点 等

アプリの導入など連絡の効率化を図った

3.今後の方向性

スポーツ庁

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

令和７年

令和７年度

●地域クラブの活動

実証事業を踏まえ、年間の活動を行っていきたい。

●新たな実証事業の実施

地域クラブの数を増やすために実証事業を行いたい。

●課題等

各学校や教員の連携・協力が必要。

令和８年

令和８年度

●地域クラブの活動

前年度の実証事業を踏まえ、年間の活動を行う地域クラブを増やしていきたい。

●新たな実証事業の実施

年間の活動を行うにあたって、課題等が多い種目については、実証事業を行っていく。

●課題等

地域クラブの活動を行える種目の選定。

令和９年以降

●地域クラブの活動

毎年地域クラブの種目数を増やしていきたい。

●課題等

教員が地域クラブへの移行を求めている種目を知ることや生徒のニーズを捉えることが必要。